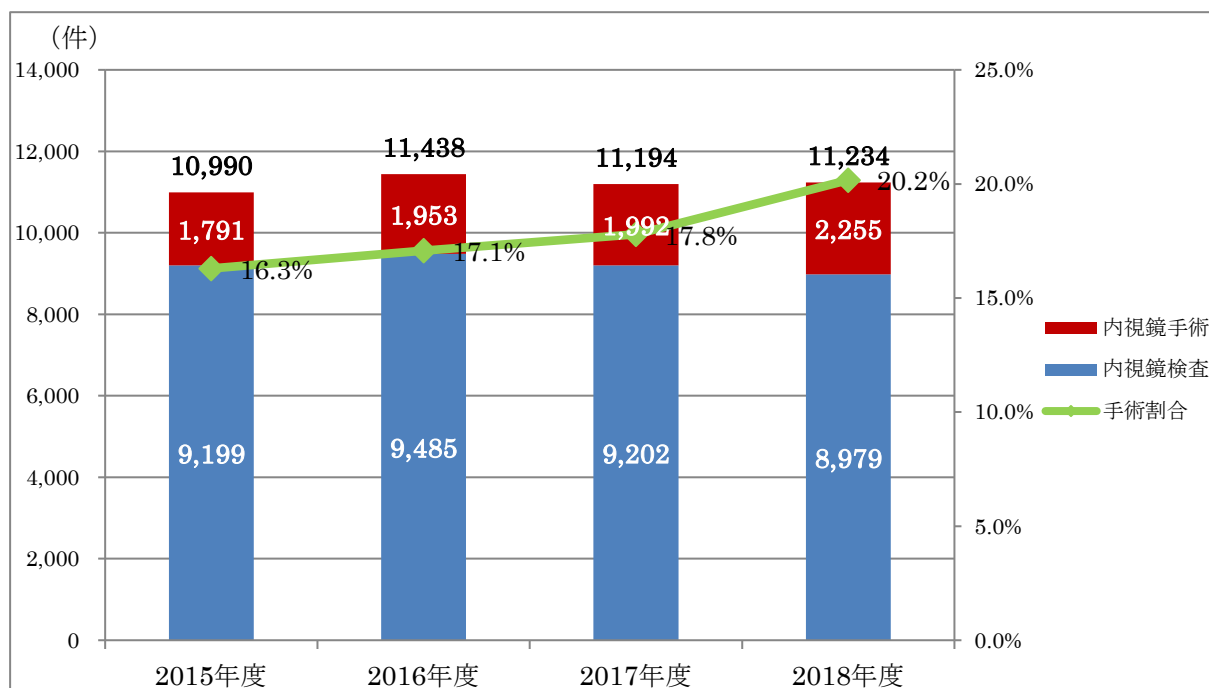


50. 内視鏡件数に占める治療（手術率）



内視鏡センターで行っている内視鏡検査には上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、小腸カプセル内視鏡、大腸カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡、超音波内視鏡がある。日本における近年のがんの罹患数は大腸がんが第1位、胃がんが第3位と、消化管のがんが多数を占めていることから、当院でも大腸内視鏡検査数、上部消化管内視鏡検査数は年々増加している。また、内視鏡検査を行うことで、内視鏡治療可能な早期がんや、前がん病変である大腸ポリープの発見数が増え、それに伴い内視鏡手術数も増加している。内視鏡手術については食道がん、胃がん、大きな表面型大腸がんに対しては粘膜下層剥離術による切除を行っている。従来挿入困難であった深部小腸（空腸・回腸）や術後再建腸管に生じた病変に対しては、ダブルバルーン小腸内視鏡による治療を行っている。当院は救急指定病院であることから緊急消化管内視鏡検査も多く、胃潰瘍出血や静脈瘤出血等に対する内視鏡的止血術や内視鏡的静脈瘤硬化療法も行っている。また、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術やステント治療も行っている。

2015年5月のA棟開棟と共に内視鏡センターがA棟に移転し、ハード面、ソフト面共に拡充した。当院の内視鏡手術件数は2017年度より増加した。